

令和2年度 第1回学校運営協議会議事録

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を勘案し、会議の開催を断念することになりました。代替措置として、「令和2年度 学校経営計画（案）」等を学校運営協議会委員の方々に送付し、それについてメールあるいはFAXでいただいた意見をまとめ、学校運営協議会委員の確認、了承を得たものを、「令和2年度 第1回運営協議会議事録」とさせていただきます。

[委員] 田中満公子委員、今西邦夫委員、井上博史委員、坂部弘重委員、
澤尾淳心委員、西端律子委員

①「令和2年度 学校経営計画（案）」について、各運営協議会委員からのご意見、ご質問

1. 「3 本年度の取組内容及び自己評価」において、1(2)⑩の評価指標「英検2級取得者30名以上」で指標を英検に変更したのはなぜでしょうか。

- 昨年度までは、共通テストに外部試験が必須になるためGTECを実施していました。しかし、共通テストから外部試験が除外されたこと、GTECを検定日に実施するには土曜日に全教員が関わって実施しなければならないため負担が大きいこと、英検は毎年一定数の生徒が受験しており大学の特別選抜にも使用できることから、GLHSの目標の一つとして掲げられている「英検2級取得者30名以上」に変更しました。

2. 「3 本年度の取組内容及び自己評価」において、3(5)①の評価指標「遅刻件数年1200件以内」及び4(8)⑤の評価指標「保護者から意見を聞く機会を多く持っている」の否定的意見が15%以下」において、目標を達成するために考えていることや新しい試みがあれば、ご説明ください。

➤ 遅刻について

コロナ禍での学校活動において、生徒に新しい学校生活様式を掲示し、個々の感染症予防対策を意識させ指導していますが、欠席や遅刻に関しては発熱などの症状に対し配慮することが求められるため、昨年までの数字と単純に比較できない現状です。

ただ、通常、終業式等で学年別の集計結果を周知し、次学期への改善を求めているところ、今年度は放送で行う形で周知するだけでなく、月ごとの学年別遅刻件数をクラス掲示するなど短いスパンで遅刻状況を意識させることに取り組みたいと考えています。

➤ 保護者から意見の機会について

特に今年度はPTA総会や授業公開もなくなったので数値の改善は難しいと思います。

PTAのホームページもリニューアルし、次は新入生に向けて保護者のメーリングリストを作ることを検討したいと考えています。

3. 新型コロナウイルス感染症防止対策に取り組みながらも、三国丘高校にふさわしい、教養深いカリキュラム、グローバルなプログラムに取り組まれていることに安心いたしました。同時に学校側の真摯な取組も尊敬しております。オンラインも積極的に取り入れていますので、すべてにおいて申し分ありません。

- 過分なお言葉をいただきありがとうございます。Google Suite for Education の導入にあたっては、オンライン学習プロジェクトチーム（12名）を急遽立ち上げ、ゴールデンウィーク返上で作業し、なんとか5月中旬には生徒とオンラインでつながる体制が整いました。現在では、課題の提示、連絡事項の伝達、アンケートの実施、保護者向けの学年連絡会の配信など、様々な場面で活用しています。コロナウイルス感染症で仮に休校になったとしても、対応できる体制があるのは安心感につながっています。

オンライン導入の際、学校のWi-Fi環境が整っていないことから、後援会にWi-Fiレンタルをお願いしたところ、すぐにお認めいただきました。そのおかげで、三丘セミナーや米国リーハイ大学による研修、SSH全国大会参加など、オンラインでスムーズに実施することができ、コロナ禍でも生徒たちに貴重な学びの機会を与えることができました。また、教員もオンラインの会議や研修が増え、活用させていただいております。この場を借りまして御礼申し上げます。

②その他項目に関する、各運営協議会委員からのご意見、ご質問

1. 「平成31年度 学校評価」について

「3 本年度の取組内容及び自己評価」では、ほとんどの項目が十分に達成されていますが、4 (7)①の評価指標「学校教育自己診断教員評価「学校経営に教職員の意見が反映されている」30% (H30 36.8%)」の評価が66.7%と前年度より大幅に増加しているのは、どうしてでしょうか。

- 校長にGLHS校での勤務経験がなく、不慣れなことも多く、様々な場面でこれまでの経緯を教職員に質問したり、担当者の考えを参考にさせてもらったりしながら進めたためではないかと考えています。引続き教職員のみなさんの力を結集しながら、進めてまいりたいと考えています。

2. 京大見学会等の取組をしているわりに、京大への進学者が例年より少ないのが少し気になります。合格者が減ったのでしょうか。それとも受験者が減ったのでしょうか。

- 大学入学共通テストへの移行を前に、全国的な動向同様、本校でも年々現役志向・安全志向が強まっております。また自宅から通学したいという生徒も年々増えており、この点も影響しているのかもしれませんが、ご質問にもあるように京大見学会など様々な取組をしておりますが、72期生は、1年生の時から京大を希望する生徒が少なく、実際の受験者数も20名、合格者数も7名でしたので、上記のような理由と相まって受験者の減少に伴い、合格者も減ったということが言えます。

3. 例年に比べて、海外の大学への進学者が多いように思いますが、海外の大学への進路指導、特に今年、合格者が出た大学への進路指導はどのようにされたのでしょうか。

- ▶ 海外大学に進学した卒業生が帰国している際など、タイミングが合えば海外大学進学や留学に関する進路交流会を実施しています。実際に海外の大学への進学を希望する生徒には、進路指導部の担当から個別に指導をするようにしています。進学希望の動機や意志、保護者の理解などの聞き取りを行い、必要に応じて保護者面談なども行っています。学校からは情報提供や相談、出願書類の添削などは行いますが、出願手続きや大学（または斡旋業者）とのやり取りは本人が行います。また、必要に応じて海外大学に進学した卒業生とつなぎ、相談に乗ってもらったり助けてもらえる環境を提供したりしています。大学に実際に進学したときに、日本語が通じない環境のなか、一人でもやっていけるように、自主性と行動力を養うことを念頭に指導しています。

4. 新型コロナウイルスの影響のため、今までとは違う生活様式のなかで、ストレスをためたり、自信をなくしたりしている生徒もいると思います。三丘生は真面目な生徒が多いので、真剣であるがゆえに落ち込むこともあると思います。実際に困っている保護者の話も聞いております。

三国丘高校は日ごろから、生徒のメンタルケア対策をしっかりと行っているのを十分に理解したうえで、このようなコロナの時期だからこそ、文武両立プラスいつも以上のメンタル強化教育を行っていただけたらと思います。

三国丘 PTA 保護者代表としては、全面的に学校のサポートをしていく所存です。

- ▶ メンタルケアと「メンタル強化」を分けて考えたいと思います。
コロナ禍の中、今年度の学校の開始やその在り方がいつもと違ったものになっていること、その中でストレスによる課題を抱えた生徒がいることなど、例年とは少し違った内容を実感しております。学校再開前からスクールカウンセラー(以下 S C)と連絡を取りながら、生徒対応時に配慮することなどをまとめ、教員間で共有したり、学校再開当初、相談室だよりで S Cからのメッセージを生徒に発信したり、再開後、各学年の担任会(週一回)、各学年の教育相談系の連絡会(週一回)などで生徒情報の交換の例年の取組みをさらに注意深く行い、課題があれば適宜ケース会議を開くなど見守りを続けています。S Cの依頼は毎回途切れることなく複数あり、S Cと担任との細やかな連携に注意しています。このまま、見守りを注意深く続けていきたいと思えます。

「精神の強さ」は自己肯定感と強く関係していると考えられますが、その自己肯定感は、クラブ活動やクラス活動、学習活動などにおける達成から生まれてくることが多いのではないのでしょうか。例年とは違うことが多くなってしまいう今年度ですが、そういった視点でクラブ活動、文化祭、校外学習など各場面・各部署で工夫しながら生徒の自主的活動を支援していると考えています。今後もさらに支援の質を深めるように話し合っていきたいと思えます。

5. 全体としては、例年どおり、緻密な計画で学校並びに先生方のやる気を感じます。SSH や SGP もコロナ禍ではありますが、順調に推移しているように思います。

➤ SSH について

コロナ禍の中で海外研修や施設見学、研修等の実施が困難になっています。このような状況下でも生徒が様々な体験ができるよう、オンラインなどを活用したプログラムを計画していきたいと考えています。

➤ SGP について

今年は、海外研修や例年参加している「高校生ビジネスプラン・グランプリ」が中止となり、生徒たちのモチベーションが維持できるか心配でしたが、生徒たちはがんばって課題研究を進めています。リーハイ大学がオンラインで5日間研修を実施してくださり、19名（SSH2名含む）の生徒が参加しました。教員も生徒も手探りの中、最終日には5班が英語で「コロナ状況下のスーパーマーケット」をテーマに、改善策や対応策を考えてプレゼンテーションを行い、成功裏に終了いたしました。同窓会には費用面でご支援いただき、本当にありがとうございました。現在、1年生の生徒に募集をかけており、11月中旬からは事前学習がスタートします。海外研修は実施できるかわかりませんが、しっかりと課題研究ができるよう指導していく予定です。

また、平成26年からのSGH～SGPの歩みをまとめて、「読売教育賞」の「カリキュラム・学校づくり部門」に応募したところ、最優秀賞を受賞することができました。読売教育賞は教育界では最も古く権威のある賞で、11月20日には東京で高円宮妃殿下ご臨席のもと、表彰式が行われます。応募の際には、がんばってくれた生徒、ご支援いただいた保護者、同窓会、大学や企業、海外大学、国際機関の皆様、そして協力してくれた教職員の顔を思い浮かべながら資料を作成しました。ご支援いただいた皆様に改めて御礼申し上げますとともに、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

6. コロナ関連での対応は大変だと思いますが、三国丘高校にとってチャンスだと思える先生がどれだけおられるかが重要だと思います。できない理由を考えるより、どうすれば生徒の意識、行動を動かせるかを考えてくださるよう、お願いします。

学年通信のカミュ著の「ベスト」の引用はとても素敵だと思います。もう一点付け加えるなら、ベストに対応できる唯一の方法は、誠実であることだとも書かれています。先生方の活躍と頑張りに期待しています。

- 新型コロナウイルス感染症のために、多くの事に制限がかかりましたが、例えば、休校中の学習支援のために、工夫を凝らした授業の補助動画作成にチャレンジしている先生の姿や、また例えば、準備期間も少なく、飲食の企画もできない一日開催の文化祭でしたが、「3Qクイズ」を作成して全員が楽しめるように考えてくれた生徒会執行部の生徒たちの姿など、様々な場面で、教職員も生徒も、この状況にしっかりと向き合い、「禍を転じて福と為す」気概を持って生活することができているのではないかと頼もしく感じています。

7. 現在着目されている「21世紀型学力」といわれている「非認知能力」の成長を、保護者や中学生にも分かるように発信されてはいかがでしょうか。その際に成長（過程）のエビデンスをしっかりと示す。これはすでにSGH、SGP、SSHで「評価ポートフォリオ」として設定して実施おられますが、それを全生徒に広げていかれてはいかがでしょうか。数字で示すことができる「認知能力」だけではなく、数値では表しにくい「非認知能力」も併せて生徒の3年間の変容を示すことができれば、三国丘高校の教育実践を地域や社会に理解していただくことができ、入学を希望する生徒は一層増えるのではないのでしょうか。

- 令和2年4月1日より、小学校から高等学校までの学習段階を越え、自らの学習状況の自己評価を行い、自己実現につなぐことを目的とする「キャリアパスポート」という、文部科学省主体の取組みが始まりました。

本校におきましては、これまでも勉強+αの数値では表しにくい力を、様々な経験を通じて培う指導をしてまいりました。こうした高校生活における個人の活動や経験、実績のすべてを「ポートフォリオ」として蓄積し、その活動や経験から、自らがどんなことを学び、どのように成長したのか知るために、今年度より三国丘高校版のキャリアパスポートとして「三丘パスポート」を実施しております。

「キャリアパスポート」は本校だけの取組みではありませんが、地域や社会に本校の境域実践を理解していただく材料の一つにすることができるのではないかと考えております。

8. 日々の地道な授業実践を通して生徒を成長させることも、重要であると忘れてはいけないと考えます。コツコツと授業に向き合っている先生がスポットライトを浴びる仕組みを構築することも重要と考えます。

- 日々の授業は、生徒の学力保障とともに、卒業後それぞれの社会で、互いの違いを認めあい、共に生きていくために人間としての成長を促す場でもあります。先生方の授業力の向上は、進路実現を含めた自己実現をめざすために必要不可欠であると考えています。授業力向上のためには、自身の授業を振り返ることと、お互いに授業を公開、見学し合って、それぞれの授業に生かすことが大切であると考えています。教員間による授業見学を推奨するとともに、授業アンケートの結果や校長による授業見学のフィードバック等を通じて授業に向き合っている先生方の支援に努めていきたいと考えています。